柳井市のスクール コミュニティ構想

「愛、夢、志をはぐくむ教育」

ースクール コミュニティによる教育のまちづくりの推進－

平 成 ２ ８ 年 ３ 月

柳井市教育委員会

１　コミュニティ・スクールとは

コミュニティ・スクールとは、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子ども達の豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みです。

２　学校運営協議会

コミュニティ・スクールには保護者や地域住民などから構成される学校運営協議会が設けられ、学校運営の基本方針を承認したり、教育活動などについて意見を述べるといった取組が行われます。

学校運営協議会の主な役割として、

①「校長の作成する学校運営の基本方針を承認する」

②「学校運営に関する意見を教育委員会又は校長に述べる」

③「教職員の任用に関して教育委員会に意見が述べられる」

の３つがあります。これらの活動を通じて、保護者や地域の皆さんの意見を学校運営に反映させることができ、コミュニティ・スクールは「地域とともにある学校づくり」を進める有効なツールです。

３　「地域とともにある学校づくり」をめざして

学校と地域の人々（保護者・地域住民）が目標を共有し、一体となって地域の子どもたちを育んでいくことは、子どもの豊かな育ちを確保するとともに、そこに関わる大人たちの成長も促し、ひいては地域の絆を強め、地域づくりの担い手を育てていくことにつながります。こうした地域とともにある学校づくりを進めていくためには、

★学校と地域の人々がみんなでよく考え、話し合っていくこと。（熟議）

★同じ目標に向かって一緒に成って活動していくこと。（協働）

★校長を中心に、人をつなぎ、学校を組織として力を上手く引き出すこと。（学校のマネジメント）

が強く求められています。

（文部科学省）

4　柳井市の進めるスクール・コミュニティ構想とは

従来のコミュニティ・スクールは「地域との協働で子どもを育てる」という学校側を中心とした働きかけに支援することが中心であったが、スクール・コミュニティ構想は「子どもと大人の融合」「地域から学び、学校に還元する」そして「学校から学び、地域に還元する」という双方向の関係づくりにまで踏み込んだ取組であり、大人と子どもの学習を共に保障するシステムである。これはまた「人づくり、まちづくり」をめざす「教育のまちづくり」を構築する取組でもある。

> 学校、公民館、出張所などの機能を集中していく中で、ネットワックを強化し、絆や信頼関係を深め、地域と学校が一体となって学んでいける学びの共同体を創造し、**「教育のまちづくり」**を構築していく取組である。

5　なぜ、このようなシステム構築が必要なのであろうか。

一つは少子高齢化、地域コミュニティの崩壊への対応という側面を含んでいる。人口の急激な減少等による地方の消滅を防ぐための一方策である。
もう一つは学校教育の改革という側面を含んでいる。

学校の小規模化、核家族化、地域の崩壊等による子どもへの影響は計り知れないものがある。社会性の育成こそ「生き抜く力」を育てるために不可欠なものであるが、それを保障するものが地域から失われるとしたら大いなる危機である。学校だけでの教育では子どもは育たないのである。その二つの側面を解決するシステムがスクール・コミュニティ構想である。

これはこれからの学校の姿であり、これからの地域の姿であり、新たな教育・学習システムの構造的変革をめざすものである。この取組は学校の改革と言うよりも地域社会そのものの改革であるといっても過言ではない。

かって、商都と呼ばれたこの地には「こやらい」というみんなで人を育てる気風があった。スクール・コミュニティは今の世に新たな「こやらい」を復活させる取組でもある。

＜新しい「こやらい」の復活＞　教育のまちづくり（地域社会の改革）

> かって、商都と呼ばれたこの地には「こやらい」というみんなで人を育てる気風があった。スクール・コミュニティは今の世に新たな「こやらい」を復活させる取組でもある。

6　スクール・コミュニティとはどんなことに取り組むのですか？

スクール・コミュニティは下の表のように、学校を中核として、学校・家庭・地域の三者がそれぞれに「人づくり」に関わっていく取組である。それは三者の役割分担を明確にすることであり、それらの取組が相互に連携・補完しながら、子ども達が育つ環境づくりを創造していく取組です。

そのためには、三者がその地域に伝わる伝統や文化を理解し、継承し、創造していくという気風を醸成していくことが重要です。

すなわち、「人づくり」を共通のテーマとしてすべての人がその地域（まち）を活性化していく取組です。

＜スクール・コミュニティのめざすもの＞

①学校、家庭、地域が一体となり、市民総参加による「人づくり」を進める構想。それは市民総参加で教育のまちづくりを進めることである。（教育のまちづくり）
②子ども達に「市民性」（将来のまちを支える人材）を育てるという意味を持つ。
③保護者がPTAから地域のおじさんやおばさんとなり、学校の応援団として支えてくれることを期待する。（地域の後継者づくり）
④人づくりに関わることによって、地域住民の生き甲斐づくりを推進する。
そのために、学校を中心に地域住民等が集まれる場を確保する。

7　今後の具体的な取組

－　学校・家庭・地域の旺盛な協働・役割分担の体制づくり　－

学校	①各学校のコーディネータの発掘 ②コミュニティルームの整備・活用（多目的ホールの活用） ③教職員の意識改革（キャラクターを入れた名刺の活用） ④教科の指導に学校支援ボランティアを活用（ゲストティーチャー） ⑤コミュニティ・スクール学校経営案や学校要覧の作成 ⑥学校運営協議会の充実（熟議、評価方法） ⑦学校の情報発信と地域情報の共有化（HP の充実＝コーディネータ）
保護者	①地域行事への参加（子どもと共に） ②生活習慣や食育等の子育てのあり方について学ぶ ③家庭の日を中心に家族を大切にする（月１回は家族で遊ぶ） ④家庭学習の充実（学びのサイクルの取組） ⑤ PTA 活動や学校支援ボランティア活動への参加

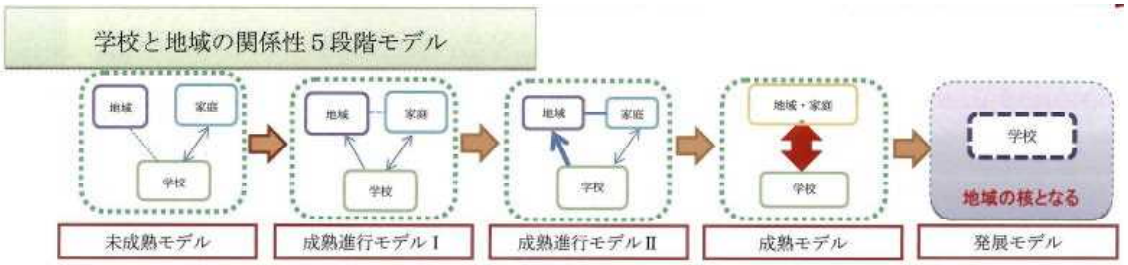
地域住民	①子育てに優しい環境づくりへの支援（こやらいの復活） ②コーディネータの発掘支援と組織化 ③学校支援ボランティア活動への積極的参加 ④放課後学習や土曜授業への協力支援 ⑤共に学び、共に楽しむ環境づくり ⑥野性の復活（自然体験活動の促進、野山での自然遊び）

教育委員会	①各事業への予算措置（コーディネータの配置、各学校の配当） ②各学校のコーディネータの発掘支援と研修会の開催 ③学校支援ボランティア名簿の整理と活動の充実化 ④学校運営協議会への参加 ⑤教職員・保護者・地域住民への啓発活動の促進（研修会の開催） ⑥情報の発信

8　今後の構想

学校と地域の関係性5段階モデル図

（地域とともにある学校づくり、学校からのまちづくり推進に関する調査研究成果報告書」より兵庫教育大学 H25,3）



１段階　　２段階　　３段階　　４段階　　５段階

＊４段階以上をスクール・コミュニティと呼ぶ。今の柳井市は３段階あたりか？

＜学校の特色づくりとコミュニティ・スクール＞

～　学校キャラクター　～

各学校では学校の特色や特性を表した「学校キャラクター」を創作し、学校のマスコットとして、学校のシンボルとしていろんな場面で活用しています。

これは、学校の特色をより鮮明にし、地域に根ざした学校づくりを進めるために創作したものです。それは、その地域に伝わる伝統や文化を理解し、継承し、新たな地域文化を創造していくという気風を醸成する取組につながるものだと考えます。

学校を愛し、地域を愛し、ふるさとを愛する学校愛や郷土愛を育て、育み、地域とのつながりを強めていく中で学校や地域の活性化を図っていくためのキャラクターです。

子ども達がこのキャラクターを愛し、大切に思ってくれることが重要となります。そこから学校への愛着が高まり、ふるさとへの愛着と相まって、地域の人材として育っていってくれるものと期待しています。

学校キャラクターは、地域に根ざした学校として、特色ある学校づくりを進めるためのシンボルとなり、地域と共にある学校づくりを進める「スクール・コミュニティ」としての取組そのものだと考えています。

＜参考資料＞　　**柳井市の教育目標**

「愛、夢、志をはぐくむ教育」

＜人間力と社会力＞

柳井市はこれまで、知識基盤社会の中で豊かに生活するためには「生きる力」が必要であり、中でも人間として社会の中で自立して力強く生きていく力である「人間力」と人が人とつながり、社会を形成する力である「社会力」が重要だとしてきた。この二つの力を育成するためには「しなやかさ」と「なごやかさ」の啓培に重点を置いてきた。「しなやかさ」とは弾力に富み、探求心、忍耐力、困難を乗り越える持久力などを身につけた主体的でたくましい姿であり「なごやかさ」とは自立性を保ちながらも、他人の意見を謙虚に聞き、相手を十分理解して能動的に人や自然と関わっていける主体的な状態であるとしている。共に主体的な姿だが、「しなやかさ」は自主自立をめざす自己の姿であり、「なごやかさ」は他者に対するやさしさや思いやりの姿である。

人間力と社会力を育てるためには、自主自立をめざすしなやかさと他者に対するやさしさや思いやりのなごやかさを育む教育の推進を図らなければならない。

柳井市では、自己肯定感を育て、自己有用感を持って活躍できる人材を育成することを教育の根幹にすえ、地域・保護者と共に特色ある学校づくりを進めていきたい。

＜知性と感性そして野性の教育を＞

知性(知)とは、容易に答えの見つからない問いに対して、決して諦めず、問い続ける能力のこと。(汎用的能力)　　(知) **新しい学力観**

感性とは、真善美の追求であり、優しさや思いやり、他者を尊重する心である。(徳)　　**心の教育**

野性とは、自然体験や生活体験、人やものとのふれあい体験を通じて身につけるたくましく生き抜く力である。(体)　　**野性の教育**